

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成20年9月号

編 集 大井 利夫
発 行 人 〒102-8414 東京都千代田区一番町13-3
社団法人 日本病院会 通信教育課
TEL 03-5215-6647 (受講生専用)
FAX 03-5215-6648 (受講生専用)
URL <http://www.hospital.or.jp>
受 付 時 間 9:00~17:00
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)
発 行 日 毎月1日
定 価 1部 150円 1カ年1,600円(送料共)
郵便振替 00190-5-396045
名 義 社団法人 日本病院会 通信教育部

担 雪 埋 井

仲 田 裕 行

愛仁会総合健康センター 所長
(前 愛仁会高槻病院 院長)
大阪会場 基礎課程(臨床医学各論) 講師

約30年前の話である。K大学附属病院での卒後研修の後、人口3万人のM市の病院に赴任した。60台後半の女性の心不全患者を受け持った。聴診、心電図、胸部X線写真、心エコーなどから心房中隔欠損症(ASD)と判明したが、問診で私が入局したばかりの母局で約20年前に心臓カテーテル検査を受けたことが分かった。上司よりそのときのカルテを探しにいき情報を入手するように当然の如く命令された。そんな以前のカルテが保管されているのかどうか半信半疑であったが、医局秘書に電話したところ何ら珍しい様子もなく入院台帳を参照し倉庫から出しておくとの返事であった。約束の日に向うとやや古びた紙カルテが用意されており感動を覚えた。当時の助教授が研修医のころに受け持った他の患者のカルテも同じ冊子に綴られており、その丁寧で正確な記載を見て流石だと感服し自分を恥じた。診療録の記載と保管の重要性を学んだ。その後T大学附属病院では明治時代開院以来のすべてのカルテが保存されていることを聞き、自分の勤務する病院もそうありたいと願った。平成3年頃からは患者や家族への十分な病状説明と納得、それも文書として記録しておくことが重要と考え複写用紙にその内容を記載し、原本をカルテに貼付し控えを渡すことにした。インフォームド・コンセントの走りである。平成11年カルテ保存期間を原則5年間としそれを過ぎたら廃棄する法人案に猛反対したが抵抗空しく押し切られた。病院の診療情報管理委員長に就任したことや医事紛争が激化してきた情勢もあり平成14年診療情報管理士を取得した。診療情報の重要性を再認識した。平成16年電子カルテが導入され診療記録の廃棄問題は解決したが、サーバー容量の限界のため即時に遡れる記録期間が限定される新たな問題が生じつつある。

このように私の医師としての歩みは診療情報とともにあるといっても過言ではない。担雪埋井、雪を担って井戸を埋める。雪はすぐに溶けていつまでたっても井戸を埋めることはできない、一見無駄なことなんだがやらない訳にはいかない、私しかできないことなのだから。診療情報管理士の皆様はまさに縁の下の力持ちです。いつもいつまでも応援しています。